7月 22日（水曜日）「再び行って」

【新改訳 2017】

ホセア書　3•1－5

「‥‥『再び行って、夫に愛されていながら姦淫している女を愛せよ。ちょうど、ほかの神々に向かい、干しぶどうの菓子を愛しているイスラエルの人々を主が愛しておられるように。』そこで、私は‥‥彼女を買い取った。」（1、2節）

主がホセアに重ねて語られたことばと、ホセアの応答です。

正しい理解のため預言文章の構造を覚えましょう。①ホセアとゴメル、主と選民のイスラエルの関係が書かれており、意味において重なっています。神はどんな罪人をも愛しておられるのです。②時間的には、その時（時代）のこととともに、遠い将来や終末のことまで言及しています。ホセアとゴメルが主とイスラエルのことを、BC700年ごろのことが世の終わりの時のことも預言しています。主はイスラエルのため、私たちのために何回、「再び行って」を繰り返しておられることでしょう。

主よ。おゆるしください。そして、助けてください。

～祈り～

主よ。あなたのご真実と、変わらぬ、きよいご愛を感謝いたします。あなたの子どもの一人として、忠実な者であらせてください。

【学びのために】

預言を含む文章の読み方について:旧約聖書は歴史の書でもあり、また、しばしばその中に将来のことの預言が重なって記されています。したがって読む時は、まずその時代のこととして読み、その上で、直積的な預言のことばや象徴、比喩などの預言を解するように読むことです。